

4月作物管理指針

あいら伊豆農業協同組合

各作物について防除履歴の記帳を徹底しましょう。

柑橘

①高接ぎ更新

接木の時期は3月中旬から4月中旬までが適期です。

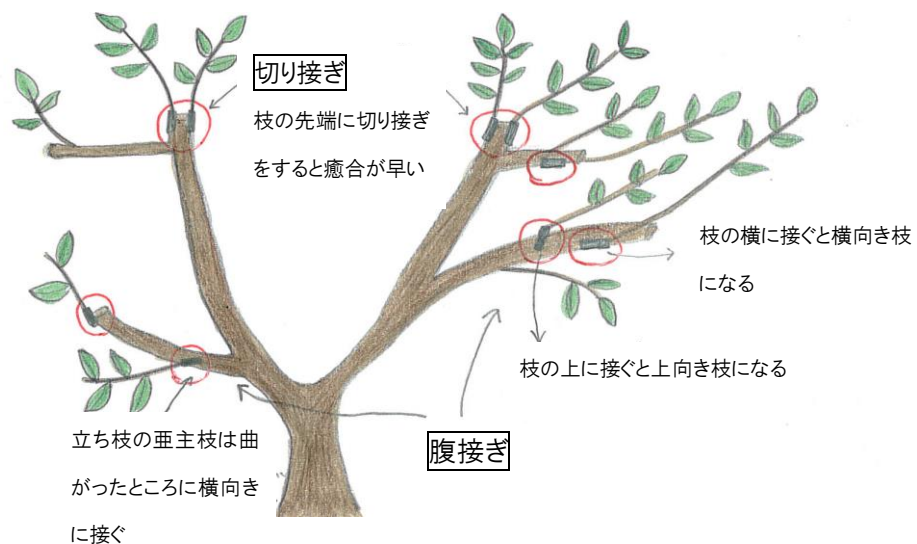
接木を行う中間台は健全な樹を対象とし、樹勢が弱った樹や老木樹は実施しないようにしましょう。

接木による品種更新は、未収益期間が短くなる反面、苗木よりも樹勢が弱くなりますので注意しましょう。また、品種更新の際は経営や園地条件に合った品種を選定しましょう。

春接ぎ: 3月中旬～4月中旬

(※時期が遅くなると芽の伸長も遅くなるので注意してください)

<接木方法>



○接ぎ穂は1～2芽使用

○接木数→ 樹齢に応じて決める。目安：10年生は10口、20年生は20口

○接木テープを巻くときは、穂木と台木を密着させましょう。(形成層を合わせる)

○接木部は、乾燥させない。台木の切り口には保護剤を塗布しましょう。
 (バッチレート、トップジンMペースト)

<接木のポイント>

① 接ぎ穂の状態が良いこと

i. 穂木が乾燥、加湿になっていないこと

→貯蔵した穂木を使用する。春接ぎの場合は、取接ぎでも可能。

ii. 充実した芽を利用する

→枝が曲がる弱い芽は活着しにくく、伸長も弱いので使用しない。

iii. 削った接穂は乾燥させない。

② 台木の状態が良いこと

i. 樹勢が低下していないこと

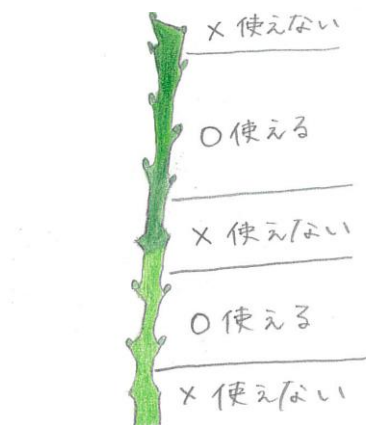
ii. 老木でないこと

③ 接木技術があること

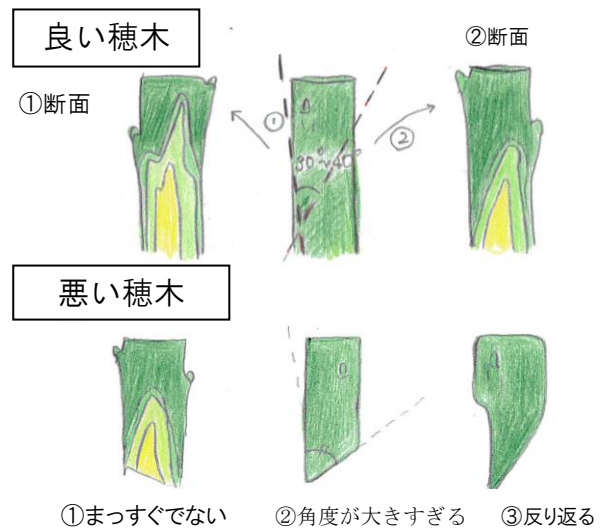
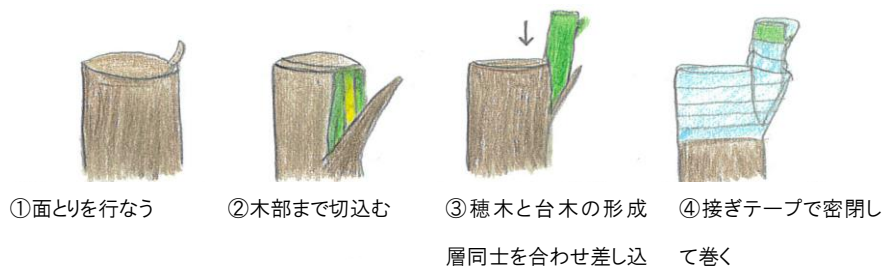
i. 切れるナイフを使用する

ii. 基本通りに穂木と台木を削ること

<<穂木の取り方>>



<<接木方法>>



②接木後の管理

i. 「ホワイトンパウダー」の塗布

接木した樹は直射日光により幹が日焼けを起こしますので、接木終了後、日焼け防止剤「ホワイトンパウダー」を塗布しましょう。

ii. 芽開け

接木後1ヶ月くらいで発芽しますが、芽開けが早すぎると芽が乾燥し枯れるので、テープ内で2cmくらい伸長した時点で小さな穴を開けましょう。

※芽の部分にメダルを使用すると、芽開けの必要がなく便利です。

iii. 接芽は支柱に結束する

③病害虫防除

以下の薬剤を、4月中下旬（開花前）までに散布しましょう。

病害虫名	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
そうか病(温州)	ムッシュボルドーDF	1,000倍	—	—	100g
薬害軽減	クレフノン	200倍	—	—	500g

病害虫名	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
カイガラムシ類幼虫	アプロードフロアブル	1,000倍	14日	3回	100cc
ミカンハダニ、ミカンサビダニ	マシン油乳剤	100倍	—	—	1,000cc

●そうか病（温州）

そうか病が蔓延傾向にあります。毎年発病している園や隣接園で発病が見られる園では必ず散布しましょう。

<症状>

果実「いぼ型病斑」

葉「いぼ型病斑」

実「そうか型病斑」



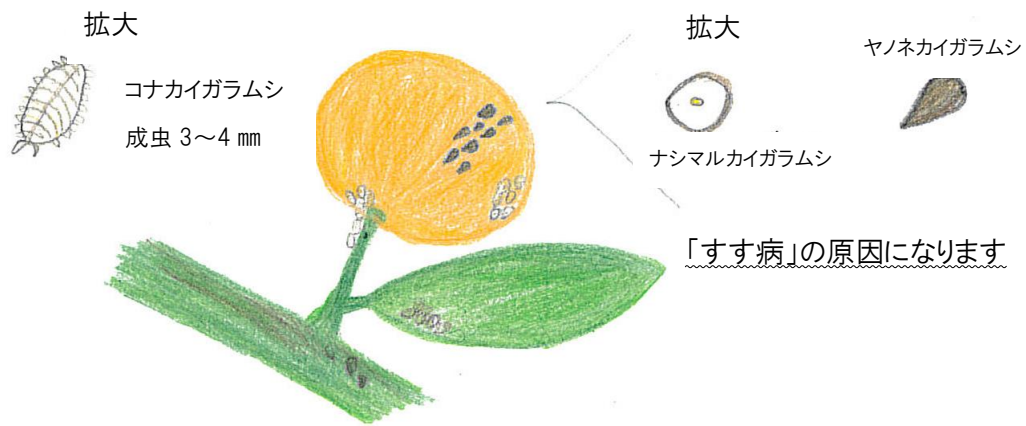
●カイガラムシ類幼虫

<発生時期>

発生回数は、年に2～3回。第1回目のカイガラムシ類は5月～6月にかけて発生し、第2回目は7月～9月、第3回目は9月～11月に発生する。

<症状>

枝や葉、果実に寄生する。枝葉に多く寄生した場合、枯死する場合があるため注意。果実に寄生すると、寄生部分が着色不良となり、外観不良果実になります。



●ミカンハダニ・ミカンサビダニの防除

1月または3月に、ハダニの防除を実施していない園は必ず散布しましょう。なお、4月中下旬のマシン油乳剤はミカンサビダニにも効果があります。必ず散布しましょう。

<症状>

<ミカンハダニ>

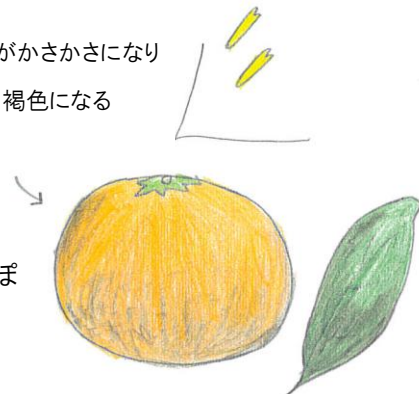
黄色で光沢の無い果
実になる



葉全体が白っぽ
くなる

<ミカンサビダニ>

果皮がかさかさになり
灰色・褐色になる



④除草

除草は、養水分が雑草に吸収されるのを防止するとともに、日光が当たり地温が高まるため、根の活動も早まります。

柿

中旬から新梢伸長期になります。上旬に春肥の施用を行いましょう。

施肥（上旬）

時 期	肥料名	10a 当り施肥量
4月上旬	グリーン化成 444	35kg

梅

4月は中旬から春枝伸長期になり、果実も肥大してきます。実肥として上旬に施肥を行ないましょう。また4月から5月は黒星病の感染期になりますので、下記薬剤を散布しましょう。

①施肥

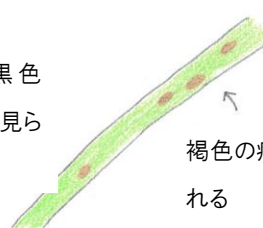
時 期	肥料名	10a 当り施肥量
4月上旬	グリーン化成 444	30kg

②黒星病（上・中・下旬 散布）

<症状>



黒緑色～黒色
円形病斑が見ら
れる



褐色の病斑が見ら
れる

<防除方法>

- ・間伐、せん定により日照、通風を改善しましょう。また、枝病斑を剪除しましょう。

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
ストロビードライフロアブル	2,000～3,000倍	7日	3回	33～50g
トップジンM水和剤	1,000倍	21日	3回	100g

③かいよう病（下旬）

<発生時期>

最初の伝染源は3月上旬から4月上旬にかけて2年生枝に発病する潜伏越冬枝病斑

<症状>

水浸状の赤褐色と黒褐色斑点。進行すると、中央部分に穴があく

赤紫色の病斑と黒色のへこんだ病斑

10月中に感染すると潜伏し翌年3月から4月に病斑が発病



<防除方法>

- ・風当たりの強い園では防風垣や防風ネットを設置し防風対策を行きましょう。
- ・発芽前に無機銅剤を散布し、発芽期～5月上旬に10～14日間隔で農薬防除を行う。
- ・多発園では4月上旬に園内を見回り潜伏越冬枝病斑を剪除しましょう。
- ・使用農薬

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
スターナ水和剤	1,000倍	7日	3回	100g

栗

4月は雌花分化期になります。上旬に施肥を行いましょう。また、カミキリムシによる食害が見られる時は、虫フンを取り除き、穴に針金を差し込み、幼虫を刺殺しましょう。

時 期	肥料名	10a当り施肥量
4月上旬	グリーン化成444	30kg

いちじく

4月に入ると発芽期を迎えます。

①苦土の施用 (上旬)

時 期	肥料名	10a当り施肥量
4月上旬	硫マグ	20kg

②芽かき (下旬)

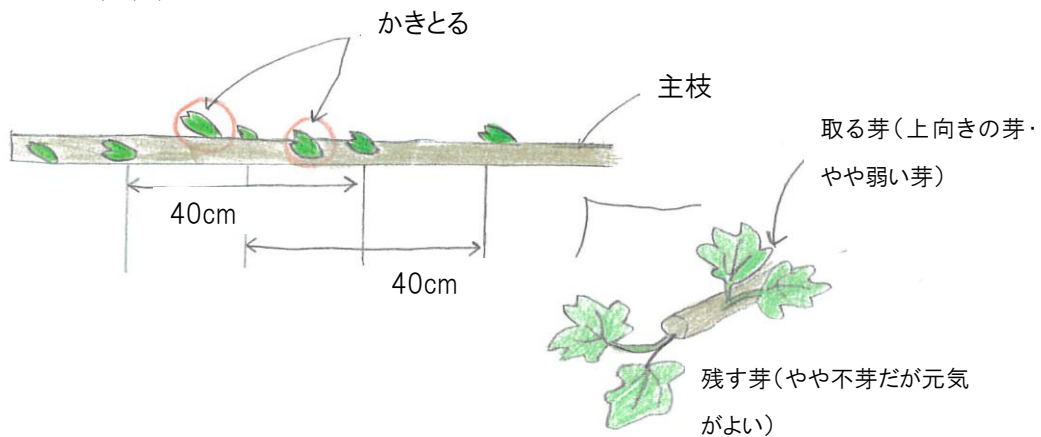
結果枝数は10a当たり2千本以下にしましょう。

残す芽は直上芽、下向き芽を除き、横芽を使用しましょう。

<芽かきの目的>

1	芽数を減らすことにより貯蔵養分の消耗を減らし、初期成育を揃える。
2	作業性の良い樹を作る。
3	樹冠内部まで光を当て、果実の品質を向上させる。
4	風通しを良くして、病害の発生を防ぐ。

<芽かきの方法>

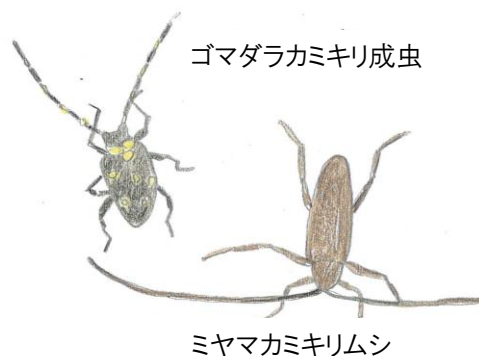
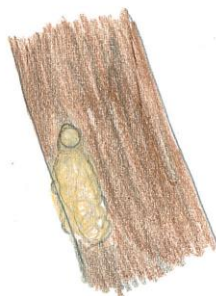


- (1) 芽が3~4葉になったら行いましょう。
- (2) 片側45cmに1芽を残しましょう。
- (3) 「横芽」や「やや下芽」を残しましょう。
- (4) 遅れて伸びる芽もあるので、2~3回巡回して実施しましょう。

③カミキリムシの防除（上旬）

→キンチョールEを虫孔注入

- 樹木に食入し、約2年半の間食害を続ける。
- 幼虫は、ノコギリくず状のものを外に排出する。



④アブラムシ類の防除（発生時）



コミカンアブラムシ



ユキヤナギアブラムシ

農薬名	倍率	安全使用基準	水100リットル当たり
アディオン乳剤	2,000倍	前日ー2回	50cc

キウイ

新梢の伸長期となり強風により枝折れが多発しますので、早めに誘引棚付けを行いましょう。

①花腐細菌病対策

<症状>

主な感染時期は蕾から開花期と考えられます。開花期に雨が多いと多発し、(通風や)密植園等で発生が目立ちます。発病すると重症花は落花し、軽症花は奇形果となり、収量に大きな影響を与えます。



雄ずいの葯や柱頭の一部が黒く腐敗する。
蕾や花弁が褐色して開花しない。

<防除方法>

- (1) 剪定枝を園の近くや中に放置しないようにしましょう。
- (2) 芽かきや整枝剪定を行い、通風採光を良くしましょう。
- (3) 過湿になると発生が助長されますので排水対策を講じましょう。

※ 環状剥皮は、かいよう病発生の原因になるため、行わないようにして下さい!!

②芽かき

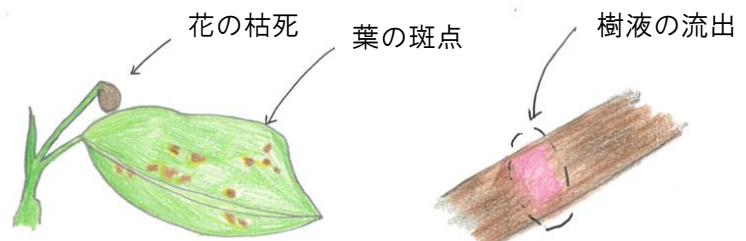
徒長する枝や下芽は、芽かきをしましょう。

③摘蕾 (レインボーレッド)

大玉果生産のため側花はすべて摘蕾しましょう。

④病虫害防除 (かいよう病)

●かいよう病●



<防除方法>

- 発病樹は早期に伐採し発生源を絶つ必要があります。伐採は園地のキウイフルーツ樹を全て伐採し、残さは適正に処分する必要があります。
- 発病樹の伐採に用いた器具は70%エタノールで必ず消毒して下さい。

<農薬散布>

農薬名	倍率	使用時期	水100リットル当たり
コサイド3000	2,000倍	収穫後～果実肥大期	50g
クレフノン	200倍	発芽期以降銅水和剤に混用して散布	500g

茶

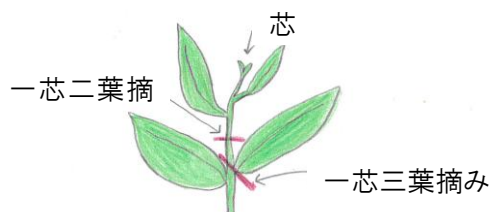
① 施肥

芽出し肥料として4月上旬（摘採20日前ぐらい）に速効性肥料を窒素成分で1アールあたり1.5kg以内を目安として、施肥しましょう。

時期	肥料名	10a当り施肥量
4月上旬(摘採20日前)	硫安	18kg

② 摘採

手摘みの場合は、本葉が3枚（一芯三葉）で摘みましょう。



③ 更新

一番茶摘採後ただちにせん枝を行いましょう。せん枝には浅刈り、深刈り、中切りなどの方法があり、茶樹の状態にあわせて実施しましょう。

つつじ

気温の上昇と共に生育が良好となってきます。苗木の定植は基準の間隔よりやや広めにとり、充実したボリューム感のある品質に仕上げましょう。

①定植時の注意

- I. 苗は選別し、揃った苗を植えましょう。
- II. 元肥にリン酸肥料を入れましょう。

時 期	農 薬 名	10 a 当り使用量
4 月	苦土重燃燐	1 0 0 k g

②植栽間隔

ヒラド系	5 0 cm × 5 0 cm
サツキ系	4 0 cm × 4 0 cm
クルメ系	5 0 cm × 4 0 cm

③仮 植

露地挿し 1 年苗仮植	4 月上旬
密閉挿し 1 年苗仮植	5 月上旬

<間 隔>

ヒラド系	3 0 cm × 3 0 cm
サツキ・クルメ系	2 0 cm × 2 0 cm

④病害虫防除

●褐班病 (4 月上旬)●

<症状>



・病葉や落葉を処分する。葉に感染する前に薬剤防除を行う。

<使用農薬>

農薬名	倍率	安全使用基準	水100リットル当たり
トップジンM水和剤	1,500倍	発病初期-5回以内	67g

●もち病（4月上旬）●

<症状>



新葉や花弁全体が餅や耳たぶの
ように膨らむ。初めは黄緑色、のち
に赤みを帯び白粉に被われる

<使用薬剤>

農薬名	倍率	安全使用基準	水100リットル当たり
Zボルドー（予防効果のみ）	500倍	—	200g
バンタック水和剤（病斑阻止効果有り）	1,000倍	8回以内	100g

●ツツジゲンバイ（4月中旬）●

<症状>



吸汁されたところは、
白く色が抜ける。

排泄物による黒い斑
点状の汚れが付く

<使用農薬>

農薬名	倍率	安全使用基準	水100リットル当たり
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	5回以内	50g

水稻

4月は播種の時期になります。また、シーズンに向け農道、水路、畦畔の修理や水田を耕起し、土を細かく砕く作業を行いましょう。

①播種

播種日の天候は出芽に大きく影響するので、なるべく晴天の日に行いましょう。

播種量は多すぎると苗立枯病が発生しやすくなるほか、軟弱徒長になりやすく、植え痛みによる初期成育停滞等の原因になります。また播種した苗床は、苗が水没してしまったり、生育が不揃いにならないよう、高低や凹みを作らないように均平にしましょう。

中苗の場合・・・催芽籾で一箱あたり100～125g播種

10a当たり26～30箱としましょう。

<注意>

1箱当たりの播種量が稚苗育苗並（催芽籾：約200g）に多く、育苗日数が長い（30～40日）事例を見かけます。

この場合、苗が老化し、苗質の低下、田植え後の活着に影響するので、適正な播種量・育苗日数を守り、健全な苗を作りましょう。

②出芽

I. 積み重ね出芽

角材の上に苗箱を15～20枚重ねて積む方法です。最下段と最上段には土を入れて、種を播種せずに水をかけただけの箱を積み、保温マットを使用しむしろとビニールで被覆します。通常2～3日で出芽しますが、気温が低いと日数を要しますので、出芽が揃った箱から苗代に出して下さい。

II. 露地出芽

播種後すぐ苗代に出して出芽させる場合は、気温によって出芽の善し悪しが大きく左右されます。保温マットを使用し灌水と換気に注意して、晴天時には高温による焼けや病害の発生、曇天の低温時には出芽不揃いなどの障害が発生しやすくなるので注意しましょう。

③緑化期（本葉1葉期まで）

出芽が揃ったら、持ち上がった覆土を灌水して落ち着かせ、種子が露出している場合は土をかけます。

昼は寒冷紗、夜はさらにビニールで被覆し、気温の低下が予想される時は、さらに保温マット等を使用します。

温度管理の目安は昼が20～25℃、夜が15～20℃です。

- ※ ・不明な点は、営農生活課(45-6585)へお問い合わせください。
- ・農薬購入には、印鑑が必要な場合があります。必ずお持ち下さい。